



報道機関各位

沖縄県立博物館・美術館 管理事務所

1/21 美術館コレクション展 開幕**「具志堅 聖児 日本画展」 「沖縄美術の流れ」**

沖縄県立博物館・美術館では、2023年1月21日(土)から美術館コレクション展「具志堅 聖児 日本画展」と、「沖縄美術の流れ」を開催いたします。

【展覧会構成】**コレクションギャラリー2****「具志堅 聖児 日本画展」**

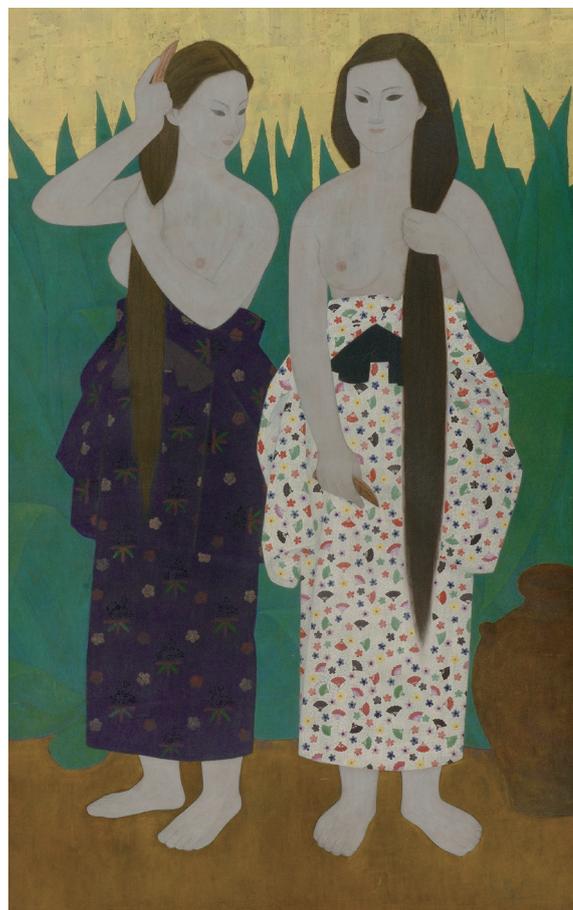
「戦争は沖縄のすべてを奪ってしまいましたよ。あのみやびやかな風俗も姿を消した。ですから私は沖縄のかつての風俗や生活を残しておきたいと思って、戦後はそればかりを描いているんですよ」と、画家の具志堅聖児（1908-1998）は語りました。

日本画の技法で描かれた淡い色調の絵画には、郷愁の思いと平和な沖縄の人々の生活がうたわれています。

山田真山や伊東深水に学び、ポール・ゴーギャンに影響を受けた具志堅の作品 14 点をご紹介します。あわせて、具志堅が研鑽を積んだ日本画壇による作品や、沖縄の日本画家の作品も展示します。

〈特別出品〉（五十音順）

池原清子／石川寅二／糸数晴甫／大野麦風／
親泊英繁／金城南海／金城安太郎／小杉放庵
／山田真山



具志堅聖児 《泉のほとり》1958 年

※ 広報用画像をご希望の方は ms-kinjo@okichura.jp へご連絡下さい。

＜お問い合わせ先＞

沖縄県立博物館・美術館指定管理者（一財）沖縄美ら島財団

企画班 広報営業担当（金城・川島）TEL 098-941-1232／FAX 098-941-2392

コレクションギャラリー1, 3

「沖縄美術の流れ」

沖縄には、本土とは異なる風土と歴史の中から育まれてきた独特の文化があります。時代の変容は、沖縄の美術家とその作品にどのような影響を与えたのでしょうか。

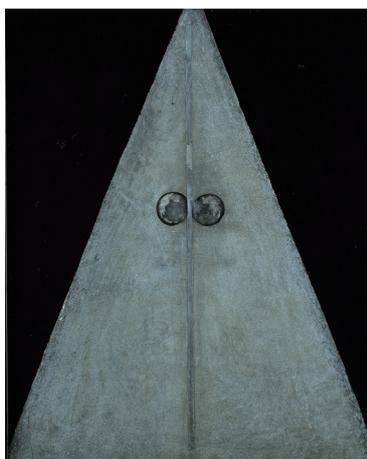
今回の「沖縄美術の流れ」では、「戦前」「戦後復興」「本土復帰」「沖縄系移民」「1990年代から現代」、そして「彫刻」という章立てで作品を紹介し、美術家達が、その時代をどのように表現したかをご紹介します。

※お手持ちのスマートフォンで「沖縄美術の流れ」の音声ガイドを聞くことができます。

（ナレーション：沖縄県立那覇国際高等学校 放送部）



具志堅以徳
 《島の春（大根畑）》
 1972年



大浜用光
 《モニュメント》
 1984年



玉那覇正吉《兎》1954年

〈概要〉

展覧会名：美術館コレクション展「具志堅 聖児 日本画展」「沖縄美術の流れ」

会 期：2023年1月21日（土）～2023年6月25日（日）

主 催：沖縄県立博物館・美術館

場 所：沖縄県立博物館・美術館 コレクションギャラリー1・2・3

観 覧 料：一般400円／高校・大学生220円／県外小・中学生100円

※県内小・中学生、未就学児、70歳以上、障がい者手帳をお持ちの方および介助者1名は無料

開館時間：9：00～18：00（金・土は20：00）※入場は閉館の30分前まで

休 館 日：月曜日（月曜日が祝日の場合は翌平日が休館）